

## 特別講演 2

### 「スタチン時代後の脂質代謝治療の話題」

神戸大学大学院医学研究科 循環器内科分野 教授

平田 健一 先生

動脈硬化は脳卒中や急性冠症候群の基本病態として重要であり、その治療法、予防法の開発は重要な課題である。スタチンが開発され、LDL-コレステロールを低下させることで、心血管イベントを減少させることが可能となった。しかし、スタチンによる心血管イベントの低下は 30%程度であり、スタチンの次世代の治療法の開発が望まれる。その一つとして、HDL-C を増加させる薬剤の開発が期待されている。また、EPA や DHA などの脂肪酸による動脈硬化予防効果やトランス脂肪酸と動脈硬化の関連も指摘されるなど、脂肪酸の役割も注目されている。動脈硬化が炎症性疾患であるとされながら、直接的に炎症や免疫反応を制御する予防法や治療法がなく、将来、炎症や免疫反応を直接標的とした予防法、治療法の開発が期待される。薬剤などによる腸管免疫の修飾で動脈硬化性疾患の予防法が開発できる可能性など、新規治療法の可能性について紹介する。